

悩まなくてもだいじょうぶ

知っておきたい アレルギーの話

NPO法人アレルギーを考える母の会
代表 園部まり子



イラスト／清水直子

第26回

石鹼でアレルギーを発症!?

天然成分だから 安心とは限らない

ある石鹼を使い続けていたら、これまで普通に食べていたうどんを食べて急に顔が腫れ、呼吸困難で救急搬送……。こんな想像もしていなかったことが起こりました。報道で存知と思いますが、悠香（福岡県）の「茶のしずく石鹼」の旧商品で、小麦を元にした成分による重篤なアレルギー症状が多発したのです。

昨年11月25日、日本アレルギー学会が厚生労働省で行なった記者会見の時点で、発症者は569人。旧商品に含まれる「グルパール19S」という小麦由来の成分が原因でアレルギーを発症したと確定診断された222人のうち、3〜5割が血圧低下

などで特に重症化し、7割以上強いかゆみや呼吸困難を、5割以上がまぶたの腫れを起こし、命にかかわってもおかしくない状態でした。

なんてそんなことが起こるのでしよう。実は、皮膚や眼、鼻の粘膜は体の内側と外側を分ける境にあたり、細菌やウイルスなどの外敵から身を守る免疫機能が発達しています。それが近年、細菌やウイルスではない物にまでアレルギー反応を起こしやすくなっていることが問題になっており、私たちがアレルギーの元になりやすい成分（アレルギー）を含んだ石鹼やシャンプー、化粧品を使うとアレルギーが皮膚や眼、鼻の粘膜にくっつき、毎日のように使うことで、その成分のアレルギーを発症してしまつことがあるとされています。



そのべ・まり子 ● 神奈川県社会福祉協議会セルフヘルプ支援事業運営委員。困っている患者と専門医との橋渡しを第一に「治療ガイドライン」情報などの提供、専門医による講演会や会報発行、行政への働きかけを行なっている。共著に『食物アレルギーの手びき 改訂第2版』（南江堂刊）。

天然成分だから毎日使っても安心とは限らないのです。 湿疹がない肌を保つことも大切に

この事例から、食へることで発症するだけでなく食物に触れることで発症するアレルギーもあることに改めて注意しなければいけないと思えました。例えば学校で使う小麦粘土、牛乳パックや卵のパックを使った工作、ソバ打ち体験、牛乳や卵を使う調理実習などにも注意が必要です。また日ごろから湿疹やたれは速やかに治して保湿し、皮膚のバリア機能を高めて皮膚から入るアレルギーを少なくすることも大切で、それによって食物アレルギーの発症が予防されるという報告もあります。